

高校生における柔道 MIND の理解度と能力向上に関する調査

林 弘典¹⁾ 横山 喬之²⁾ 田中 勤³⁾ 石川 美久⁴⁾ 生田 秀和⁵⁾

Investigation of Judo MIND Comprehension and Competence Improvement among High- School Students

Hironori HAYASHI Takayuki YOKOYAMA Tsutomu TANAKA
Yoshihisa ISHIKAWA Hidekazu SHODA

Abstract

The purpose of this study was to verify how well high-school judo club members understood Judo MIND and how much they felt their ability had improved. A questionnaire was administered to 154 high-school judo club members to evaluate their understanding of Judo MIND and the extent to which they had improved their ability in Judo MIND. The results revealed the following:

1. 60-70% of the participants did not understand “M,” “I,” “N,” and “D.”
2. Regarding their ability in Judo MIND, high-school students felt that their ability in “M” had improved more than their ability in “N” and in “D.” The high-school students also felt that their “I” ability had improved more than their “D” ability.

The above findings highlight the need to fully explain the meaning of “I,” “N,” and “D,” in particular, in order to spread the ethos of Judo MIND among future high-school students.

Key words : Judo MIND, Manners, Independence, Nobility, Dignity, High-School Student
キーワード : 柔道 MIND, 礼節, 自立, 高潔, 品格, 高校生

1) びわこ成蹊スポーツ大学 2) 摂南大学 3) 奈良学園登美ヶ丘高等学校 4) 大阪教育大学
5) 大阪体育大学

I 緒言

2012年に全日本女子柔道ナショナルチームにおける暴力・ハラスメント問題（全日本柔道連盟, 2013）が起こり, 2013年に全日本柔道連盟（以下, 「全柔連」と略す）は暴力の根絶プロジェクトを立ち上げた（全日本柔道連盟, 2015）。翌年の2014年に暴力の根絶プロジェクトは柔道 MIND プロジェクト特別委員会と名前を改めて活動内容が広がられている。その理由は, 暴力の根絶プロジェクトは, 暴力という負の側面を排除するだけでなく, 礼節や品格といった正の側面の向上も目指しているからである（全日本柔道連盟, 2014）。

柔道 MIND には, 柔道の創始者である嘉納治五郎師範の教えの精神, 柔道の心に立ち返ろうという気持ちが込められている。MIND は, Manners (礼節), Independence (自立), Nobility (高潔), Dignity (品格) の4つの英単語の頭文字から由来する。それぞれの意味について, Manners (以下, 「M」と略す) は礼儀を尽くす・相手を尊重することを意味する。Independence (以下, 「I」と略す) は独り立ちすることを意味する。Nobility (以下, 「N」と略す) は正しいことを考え行うこと・気高さを意味する。Dignity (以下, 「D」と略す) はその人に感じられる品・気高さを意味する（宮嶋ほか, 2015）。この4つを守ってこそ, 柔道家と呼ばれるに相応しいことを明確に示そうという狙いがある。

数年に渡って柔道 MIND が展開されているにも関わらず, 柔道界における暴力・ハラスメントは未だに続いている。大学柔道選手を対象にした調査において, 627名のうち224名(35.7%)が過去に体罰やハラスメントの経験があり, 「殴る・蹴る・叩く」「物を投げつけられた」「長時間の正座」などを受けたと報告されている（川戸ほか, 2017）。近年では, 2019年に不適切な指導（危険な行為の容認）が1件, 2020年に不適切な指

導（暴力）2件, わいせつ行為2件が報告されている（全日本柔道連盟, 2020a, 2020b, 2020c）。これらの懲戒報告から, 柔道指導者の礼節・自立・高潔・品格が欠けていると言わざるを得ない。このことから, 柔道 MIND 活動があまり理解されておらず, 教育効果も少ない可能性が考えられる。

この問題は指導者に関することであるが, 将来指導者となる者に柔道 MIND がどのくらい理解されているのか, 柔道による教育効果によって柔道 MIND の能力向上が実感されているかを積極的に示していくことによって, 柔道界は社会から信頼を得ることができる。

そこで本研究の目的は, 高校の柔道部員がどのくらい柔道 MIND を理解しているのか, どのくらいその能力向上を実感しているかを検証することとした。

II 方法

1. 対象者

本研究では, 高校の柔道部に所属している部員154名を対象とし, 2021年7~10月にアンケートを実施した。対象者には, 本研究の目的や方法などを説明して同意を得てアンケートを実施した。本研究は, びわこ成蹊スポーツ大学学術研究倫理専門委員会にて承認されたものである（成蹊大第43号）。

2. 質問項目

質問項目は, 全柔連が作成した「柔道の未来のために2020年 第5版(全日本柔道連盟, 2020)」における「初心者への練習プログラム」「初心者への練習めあて」に基づいて, 柔道五段以上かつA指導者ライセンス保持者5名が検討した。また, 「田中ほか(2021)の柔道 MIND に関する研究や山田ほか(2014, 2015, 2016)の柔道ルネッサンスに関する研究を参考にした。

(1) 柔道 MIND の理解度について

「M」「I」「N」「D」のそれぞれの頭文字の

示す言葉を知っているかを「はい」「いいえ」で回答させた。次に、「はい」と回答した者に頭文字を含めたスペルを記述させた。記述は、英語あるいは日本語のどちらでも良いこととした。「はい」と回答し、かつスペルを正しく書くことのできた者を理解している者と判断した。したがって、「はい」と回答してもスペルが間違っている回答は「いいえ」として集計した。

(2) 柔道による「M」「I」「N」「D」の能力向上について

前述した検討資料における「M」「I」「N」「D」に示されている能力について、柔道によってそれができるようになったかどうかを質問した(表1)。「わからない」「ほとんど思わない」「あまり思わない」「やや思う」「かなり思う」の5つから回答させた。

3. 分析方法

柔道 MIND の理解度については、「はい」「いいえ」の回答者数の割合を比較するために χ^2 検定を行った(田中, 1996, 田中・山際, 1989)。柔道 MIND の能力向上については、「わからない=0点」「ほとんど思わない=1点」「あまり思わない=2点」「やや思う=3点」「かなり思う=4点」と置き換え、各質問項目で平均値を算出した。次に、「M」「I」「N」「D」のそれぞれにおける質問全体の平均値を算出し、一元配置分散分析を行った。その結果、有意な差が認められた場合、Tukeyの多重比較検定を行った。統計処理には、SPSS Statistics 25を用い、有意水準は5%未満とした。

Ⅲ 結果

1. 「M」「I」「N」「D」の理解度について

柔道 MIND の「M」「I」「N」「D」の頭文

表1 柔道による「M」「I」「N」「D」の能力向上に関する質問項目

「M」の能力
(1) 柔道によって、礼法ができるようになりましたか？
(2) 柔道によって、あいさつができるようになりましたか？
(3) 柔道によって、礼儀作法を守ることができるようになりましたか？
(4) 柔道によって、約束事を守ることができるようになりましたか？
(5) 柔道によって、マナーを守ることができるようになりましたか？
(6) 柔道によって、みんなが気持ちよくすごせるために必要なことができるようになりましたか？
(7) 柔道によって、美しい礼ができるようになりましたか？
「I」の能力
(1) 柔道によって、自ら真剣に取り組む姿勢が身につきましたか？
(2) 柔道によって、自ら進んで稽古ができるようになりましたか？
(3) 柔道によって、自ら進んで行動ができるようになりましたか？
(4) 柔道によって、自分で考え判断して行動できるようになりましたか？
(5) 柔道によって、自分の意思で行動できるようになりましたか？
「N」の能力
(1) 柔道によって、謙虚(控えめでつましやかなさま)になれましたか？
(2) 柔道によって、誠実になれましたか？
(3) 柔道によって、相手への思いやりの行動や言動ができるようになりましたか？
(4) 柔道によって、正しいことを考え実行できるようになりましたか？
(5) 柔道によって、どんな時も正々堂々ふるまうことができるようになりましたか？
「D」の能力
(1) 柔道によって、立ち居振る舞いが美しくなりましたか？
(2) 柔道によって、周囲に配慮した行動ができるようになりましたか？
(3) 柔道によって、礼儀正しい言葉遣いができるようになりましたか？
(4) 柔道によって、誰からも尊敬される生き方ができるようになりましたか？
(5) 柔道によって、誰からも尊敬される人になることができましたか？

字の意味を知っているかについて「はい」「いいえ」で回答させた結果、「M」の回答について、「はい (61名, 39.6%)」「いいえ (93名, 60.4%)」であった (図1)。「I」の回答について、「はい (51名, 33.1%)」「いいえ (103名, 66.9%)」であった (図2)。「N」の回答について、「はい (49名, 31.8%)」「いいえ (105名, 68.2%)」であった (図3)。「D」の回答について、「はい (46名, 29.9%)」「いいえ (108名, 70.1%)」であった (図4)。すべての頭文字について、その意味を知らない者の割合が有意に高かった ($p < 0.05$)。

2. 柔道による「M」「I」「N」「D」の能力向上の比較

表2は「M」「I」「N」「D」における能力向上に関する結果を示したものである。「M」「I」「N」「D」において一元配置分散分析を行った結果、有意な差が認められた ($p < 0.05$)。次に、Tukeyの多重比較検定を行った結果、「M」の平均値は「N」より有意に高かった ($F(3.612) = 6.425, p < 0.05$)。「M」の平均値は「D」より有意に高かった ($F(3.612) = 6.425, p < 0.001$)。「I」の平均値は「D」より有意に高かった ($F(3.612) = 6.425, p < 0.05$) (図5)。

IV 考察

1. 「M」「I」「N」「D」の理解度について

すべての頭文字の理解度について、「いいえ」と回答した割合が有意に高く、柔道MINDが理解されていないことが明らかとなった。また、「M」「I」「N」「D」の順に「はい」とした割合が高いことも判明した。

柔道MINDは、2013年より全日本柔道連盟によってスタートしたプロジェクトであるが、高校生には理解が浸透していないことが示された。柔道MINDという単語は聞き慣れているが、4つの英単語の頭文字を組み合わせで作られたことが理解されてないと考えられる。つまり、それぞれの意味を問われた

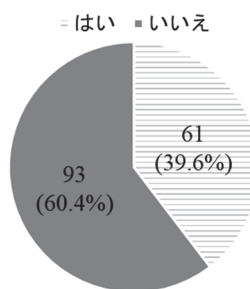


図1 高校生 (n = 154) における「M」の認知度

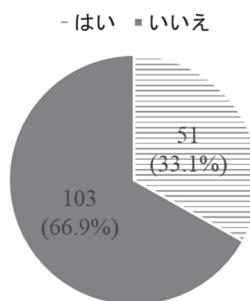


図2 高校生 (n = 154) における「I」の認知度

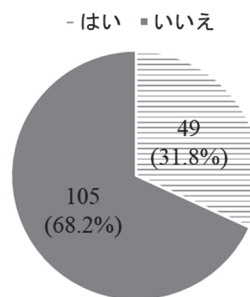


図3 高校生 (n = 154) における「N」の認知度

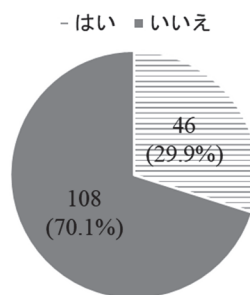


図4 高校生 (n = 154) における「D」の認知度

表2 柔道による「M」「I」「N」「D」の能力向上について

「M」の能力		平均	SD
(1) 柔道によって、礼法ができるようになりましたか？		3.84	0.55
(2) 柔道によって、あいさつができるようになりましたか？		3.84	0.44
(3) 柔道によって、礼儀作法を守ることができるようになりましたか？		3.78	0.55
(4) 柔道によって、約束事を守ることができるようになりましたか？		3.60	0.82
(5) 柔道によって、マナーを守ることができるようになりましたか？		3.73	0.58
(6) 柔道によって、みんなが気持ちよくすごせるために必要なことができるようになりましたか？		3.59	0.74
(7) 柔道によって、美しい礼ができるようになりましたか？		3.69	0.65
合計		3.72	0.48
「I」の能力		平均	SD
(1) 柔道によって、自ら真剣に取り組む姿勢が身につきましたか？		3.68	0.61
(2) 柔道によって、自ら進んで稽古ができるようになりましたか？		3.60	0.81
(3) 柔道によって、自ら進んで行動ができるようになりましたか？		3.59	0.77
(4) 柔道によって、自分で考え判断して行動できるようになりましたか？		3.58	0.71
(5) 柔道によって、自分の意思で行動できるようになりましたか？		3.64	0.64
合計		3.62	0.62
「N」の能力		平均	SD
(1) 柔道によって、謙虚（控えめでつましやかなさま）になれましたか？		3.49	0.72
(2) 柔道によって、誠実になれましたか？		3.42	0.86
(3) 柔道によって、相手への思いやりの行動や言動ができるようになりましたか？		3.56	0.87
(4) 柔道によって、正しいことを考え実行できるようになりましたか？		3.61	0.73
(5) 柔道によって、どんな時も正々堂々ふるまうことができるようになりましたか？		3.45	0.86
合計		3.51	0.68
「D」の能力		平均	SD
(1) 柔道によって、立ち居振る舞いが美しくなりましたか？		3.48	0.78
(2) 柔道によって、周囲に配慮した行動ができるようになりましたか？		3.58	0.84
(3) 柔道によって、礼儀正しい言葉遣いができるようになりましたか？		3.60	0.84
(4) 柔道によって、誰からも尊敬される生き方ができるようになりましたか？		3.31	1.94
(5) 柔道によって、誰からも尊敬される人になることができましたか？		3.07	1.19
合計		3.41	0.86

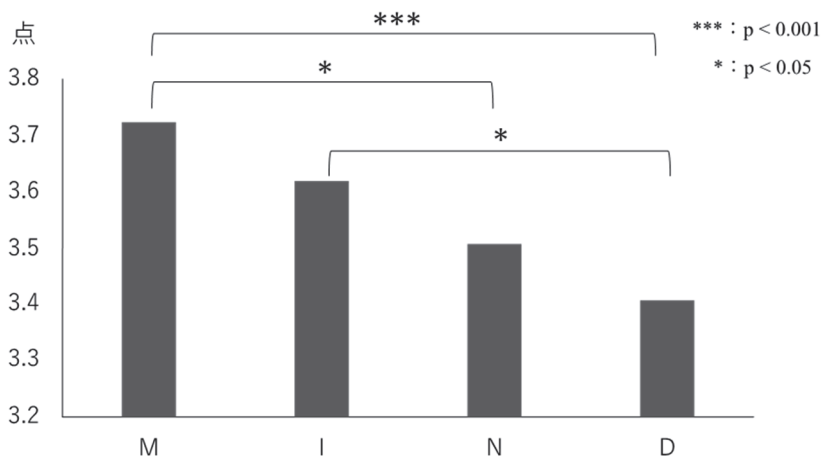


図5 「M」「I」「N」「D」の能力向上の比較

時に何かの頭文字だったのかを把握していないと推察される。今後、大会などで柔道 MIND の話を繰り返すことによって、それぞれの単語の意味も説明して理解を深めることが重要であると考えられる。

「M」の理解度が最も高かったことは、「M」の「Manner」は一般的に理解が定着した単語であったためであると考えられる。また、「I」「N」「D」は、高校の英語レベルにおいて難易度が高く、「M」ほど身近に感じられなかったからであると思われる。今後、柔道 MIND を浸透させるためには、特に「I」「N」「D」の意味を十分に説明する必要がある。

2. 柔道による「M」「I」「N」「D」の能力向上の比較

「M」の能力向上は「N」や「D」より認識されていることが明らかとなった。また、「I」の能力向上は「D」より認識されていることが明らかとなった。

柔道修行の目的の中でも「Manner」を重んじることは一般的に定着しており、柔道を始める動機にもなっている可能性がある。高校の柔道部員は、「Manner」を重んじる行動、具体的には礼法を実践していると推察される。また、高校時代は競技柔道の最も盛んな時期である。勝利という目的のために柔道を行っているために、「N」と「D」を理解して行動ができないことが影響していると考えられる。なお、「I」が「D」より高かった理由は、高校生は大人として徐々に自覚が芽生え始めているためであると考えられる。

V 総括

本研究の目的は、高校の柔道部員がどのくらい柔道 MIND を理解しているのか、どのくらいその能力向上を実感しているかを検証することとした。柔道 MIND の理解度、柔道 MIND における能力向上について、高校の柔道部員 (154 名) にアンケートを実施した。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 「M」「I」「N」「D」について 60～70% の者が理解していなかった。
 2. 柔道 MIND の能力について、高校生は「M」の能力が「N」や「D」よりも向上したと実感していた。また、「I」の能力が「D」よりも向上したと実感していた。
- 以上のことから、今後、高校生に柔道 MIND を浸透させるためには、特に「I」「N」「D」の意味を十分に説明する必要がある。

利益相反

本研究に関して、開示すべき利益相反状態は存在しない。

文献

- 川戸湧也・岡田弘隆・増地克之・小野卓志 (2017) 柔道指導現場における「体罰」・「ハラスメント」ならびに「ドメスティックバイオレンス」の実態調査：大学生柔道選手を対象として。武道学研究, 49 (3) : 183-191.
- 宮嶋泰子 (2015) 柔道マインド世界に広がる！. <https://www.tv-asahi.co.jp/reading/kokontouzai/2716/>, (参照日 2020 年 11 月 28 日).
- 田中敏 (1996) 実践心理学データ解析. 新曜社.
- 田中敏・山際勇一郎 (1989) 新訂ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 (2 版). 教育出版.
- 田中勤・石川美久・横山喬之・正木嘉美・生田秀和・林 弘典 (2021) 「柔道 MIND」活動に関する意識調査—指導者を対象として—. 関西武道学研究, 30 (1) : 21-27.
- 山田利彦・金丸雄介・石井孝法・福見友子・上水研一郎・金野潤・柏崎克彦 (2014) 柔道ルネッサンス活動意識調査～2010 年柔道ルネッサンスフォーラム参加者を対象に～. 了徳寺大学研究紀要, 8 : 79-87.
- 山田利彦・金丸雄介・石井孝法・越田専太郎・小菅亨・福見友子・上水研一郎・金野潤・柏崎克彦 (2015) 柔道ルネッサンス活動意

- 識調査～2010年全国高校総合体育大会柔道競技監督会議出席者を対象に～. 了徳寺大学研究紀要, 9: 17-31.
- 山田利彦・金丸雄介・石井孝法・上水研一朗・金野潤 (2016) 柔道ルネッサンス活動に関する意識調査—2010年全日本実業柔道個人選手権大会代表者会議出席者を対象に一. 了徳寺大学研究紀要, 10: 31-44.
- 全日本柔道連盟 (2013) 「柔道女子暴力的指導問題に対する第三者委員会」の答申を受けて (13.3.21). <https://www.judo.or.jp/p/992>, (参照日 2022年11月25日).
- 全日本柔道連盟 (2014) 柔道 MIND プロジェクト特別委員会の発足について. <https://www.judo.or.jp/p/32712>, (参照日 2022年11月25日).
- 全日本柔道連盟 (2015) 暴力・体罰・セクハラ問題を学ぶためのガイドブック. 全日本柔道連盟.
- 全日本柔道連盟 (2020) 柔道の未来のために柔道の安全指導 2020年 (第5版). 全日本柔道連盟.
- 全日本柔道連盟 (2020a) 懲戒処分の実施について (2020年09月29日). <https://www.judo.or.jp/news/341/>, (参照日 2022年11月11日).
- 全日本柔道連盟 (2020b) 懲戒処分の実施について (2020年02月28日). <https://www.judo.or.jp/news/686/>, (参照日 2022年11月11日).
- 全日本柔道連盟 (2020c) 懲戒処分の実施について (2020年12月21日). <https://www.judo.or.jp/news/4686/>, (参照日 2022年11月11日).

(2023年10月10日受付)
(2023年11月14日受理)